

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

2010年 10月 31日

|             |             |
|-------------|-------------|
| 派遣者氏名（専門分野） | 福島 邦久（西洋史学） |
|-------------|-------------|

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 派遣期間 | 2010年 9月 1日 ～ 2010年 9月 10日 |
|------|----------------------------|

派遣研究機関

| 国    | 都市   | 訪問機関                    |
|------|------|-------------------------|
| イギリス | ロンドン | British Library (大英図書館) |

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

British Library の閲覧室を利用するためには、リーダーズ・パスを取得する必要がある。そのために、現地訪問前にまず Web 上で事前登録を行う。British Library のホームページで、必要事項を入力するだけで簡単に登録できる。その際に得られる事前登録番号とパスポート、そして日本での現住所を証明する書類(免許証・公共料金の請求書・クレジットカードの明細など)を持って British Library の登録受付に行き、登録手続きを済ますことでようやくリーダーズ・パスを取得することができる。この際、現住所を証明する書類が日本語の場合、読むことのできる職員がおらずパスを取得できない可能性があるため、注意する必要がある。今回の派遣では事前に日本人職員の方と連絡を取っていたため、問題なくパスを取得することができた。

リーダーズパスを係員に見せることで閲覧室に入ることができる。閲覧室は分野別にいくつかあり、開館時間は基本的に月曜日が 10 時～20 時、火曜日から木曜日が 9 時 30 分～20 時、金曜日と土曜日が 9 時 30 分～17 時となっているが、実際は閲覧室ごとに異なっているため、部屋の前にある開室時間表で確認する必要がある。

閲覧室に入る際には靴や、コートなどの上着を持ち込むことはできず、荷物はコインロッカーに預けなければならない。そして鉛筆・リーダーズパス・ノートパソコンなどの最小限の持ち物を指定の袋に入れて持ち込むことになる。なお、シャープペンシルやボールペンは持ち込むことができず、カメラを持ち込んでの写真撮影も許可されていない。閲覧室から出る際には資料を持ち出していないか確認するため荷物検査を受ける。

資料を閲覧する際には、まず閲覧室内に設置されている端末を使って検索し、閲覧したい資料が見つかったらそのまま画面の指示に従って閲覧申請を行う必要がある。閲覧申請の際にどの閲覧室で閲覧したいか選ぶことができるが、貴重な資料ほどその選択の幅は狭くなる。閲覧申請をすると何分後から閲覧可能か画面で確認できるため、その時間だけ待って選んだ閲覧室のカウンターに行きリーダーズ・パスを見せると資料を受け取ることができ、閲覧室内に設置された椅子と机を利用して閲覧することができる。なお、資料検索の際に分からないことがある場合には、職員に質問するとたいていのことは教えてもらうことができる。

派遣者が主に閲覧した India Office Records は、閲覧室のうちアジア・アフリカコレクションの部屋でしか閲覧することができなかった。しかし、派遣者が閲覧した範囲内では閲覧に強い制限はかかっておらず、上記の手続きを踏んで閲覧を申請すれば、1 時間ほどで文書が届き、問題なく閲覧することができた。また、閲覧室内には詳細な目録もあり、検索の際には非常に役立った。しかし、さらに貴重な資料の場合は事前にメールなどで閲覧許可を申請する必要があるようなので、注

意しなければならない。

